

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-318539

(43)公開日 平成11年(1999)11月24日

(51)Int.Cl.⁹

識別記号

F I

A 4 5 C 13/20

A 4 5 C 13/20

1/02

1/02

Z

審査請求 有 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21)出願番号

特願平10-146584

(22)出願日

平成10年(1998) 5 月11日

(71)出願人 397061541

豊島 清

大阪府門真市千石東町13番23号

(72)発明者 豊島 清

大阪府門真市千石東町13番23号

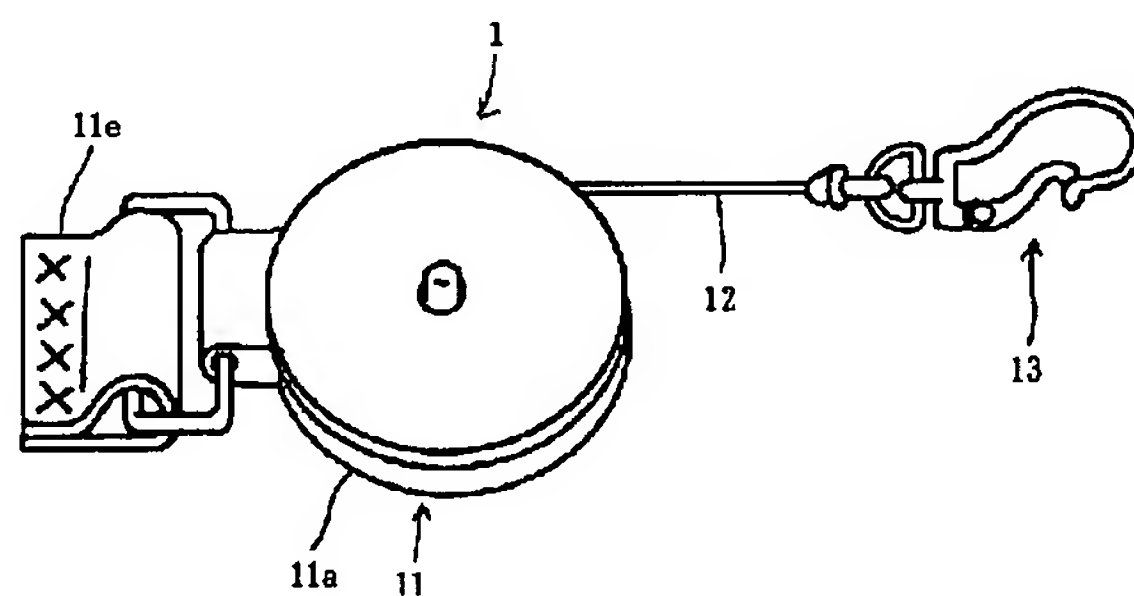
(74)代理人 弁理士 山本 拓也

(54)【発明の名称】 財布連結具

(57)【要約】

【課題】 本発明は、財布と鞆とを連結して財布が鞆から抜き取られる所謂スリから身を守ることができる財布連結具に関する。

【解決手段】 本発明の財布連結具1は、鞆A内にリール部材11を収納、固定し、このリール部材11に巻装した紐条体12の先端に財布Bを連結するための連結部材13が一体に設けられていることを特徴とするので、人混み中を往来している間に万スリにあい、財布Bが鞆A内から取り出された場合にあっては、財布Bと鞆Aとは財布連結具1によって連結されていることから、該財布連結具1の紐条体12によって鞆Aが引っ張られるので直ぐにスリに気付き、財布Bが鞆Aから持ち去られるといった不測の事態を防止することができる。



Best Available Copy

【特許請求の範囲】

【請求項1】 鞆内にリール部材を収納、固定し、このリール部材に巻装した紐条体の先端に財布を連結するための連結部材が一体に設けられていることを特徴とする財布連結具。

【請求項2】 上記紐条体は任意の巻出し長さに上記リール部材から巻出し固定可能であることを特徴とする請求項1に記載の財布連結具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、財布と鞆とを連結してスリ等の盗難から身を守ることができるとともに、財布を鞆内に収納している状態においては紐条体がリール部材に巻き取られて邪魔にならない財布連結具に関する。

【0002】

【従来の技術】通常、外出する際、財布は鞆の中に収納して携行している。特に女性はハンドバッグに収納しているのが通常であるがハンドバッグは手元から離れやすく、人で混雑した場所を往来している間にハンドバッグから財布が抜き取られたりするといった被害が度々発生していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、財布と鞆とを連結し、財布が鞆から抜き取られる所謂スリから身を守ることができ、使用する際には財布と鞆とを連結する紐条体がリール部材から巻き出されて財布からのお金の取り出しが円滑に行うことができるとともに、財布を使用しない時には上記紐条体がリール部材に巻き戻されて鞆内にコンパクトに収納することができる財布連結具に関する。

【0004】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の財布連結具は、鞆内にリール部材を収納、固定し、このリール部材に巻装した紐条体の先端に財布を連結するための連結部材が一体に設けられていることを特徴とする。

【0005】請求項2に記載の財布連結具は、請求項1に記載の財布連結具において、上記紐条体は任意の巻出し長さに上記リール部材から巻出し固定可能であることを特徴とする。

【0006】

【作用】本発明の財布連結具を使用するにあたっては、鞆内に収納、固定したリール部材に巻装された紐条体の先端に一体に設けられた連結部材に財布を連結する。そして、財布を使用しない時は、上記紐条体をリール部材に巻装、収納しておくとともに、その先端の連結部材に連結した財布も鞆内に収納しておく。

【0007】一方、財布を使用する場合は、上記リール部材に巻装、収納した紐条体の連結部材に連結した財布を鞆外に取り出すことによって、上記リール部材に巻

装、収納した紐条体を引っ張り、紐条体をリール部材から所定長さだけ巻き出す。そして、財布からのお金を出し入れが完了し、財布が不要になった時は、紐条体をリール部材に巻き戻すとともにその先端の連結部材に連結した財布も鞆内に収納する。

【0008】

【発明の実施の形態】本発明の財布連結具の一例を図面を参照しつつ説明する。本発明の財布連結具1は、図1乃至図2に示したように、鞆A内にリール部材11を収納、固定し、このリール部材11に巻装した紐条体12の先端に財布Bを連結するための連結部材13が一体に設けられて構成されている。

【0009】上記リール部材11は、上記紐条体12を巻き戻し自在に巻装することができれば、特に限定されるものではない。このようなリール部材11としては、例えば、図2及び図3に示したように、内部に収納空間を有する平面円形状のリール本体11a とこのリール本体11a の上記収納空間内に回動自在に配設され且つ外周面に上記紐条体12を巻装可能な円環状体11b とからなるとともに、上記円環状体11b はスプリング11c によってその外周面に巻装した紐条体12を巻き戻す方向に常時付勢されており、更に、上記円環状体11b の上記紐条体12を巻き出す方向への回動は規制しないが、上記円環状体11b と係合することによって上記円環状体11b の上記紐条体12を巻き戻す方向への回動を規制し該円環状体11b を任意の位置で固定するストッパ部材11d とから構成されるリール部材11が挙げられる。なお、上記リール部材11の外周面にはバンド体11e が一体に設けられており、このバンド体11e を鞆Aの内面に縫着することによって上記リール部材11を鞆A内に収納、固定する。更に、上記リール部材11の他に、上記紐条体12を巻き出した際に任意の巻出し位置で自動的に固定されるとともに、巻き出された紐条体12を若干長さだけ引っ張ると上記紐条体12の巻出し固定が解除されて自動的に紐条体12がリール部材11内に巻き戻されるリール部材11を用いてもよく、このようなリール部材11を用いれば後述するが財布Bの使用が終わり、巻き出された紐条体12をリール部材11に巻き戻す際に紐条体12、或いは、その先端に連結した財布Bを若干長さだけ引っ張るといった簡単な作業だけで巻き出された紐条体12をリール部材11に巻き戻すことができ好適である。

【0010】そして、上記リール部材11は鞆A内であれば固定する場所は特に限定されるものではないが、鞆Aの内側面の下方部に固定しておけば、上記リール部材11に紐条体12を巻き戻してその先端に連結した財布Bを鞆A内に収納した際、財布Bも鞆Aの内側面に沿った状態で収納されるので、財布Bを鞆A内において整理、整頓した状態で収納しておくことができる。

【0011】上記リール部材11に巻装される紐条体12は、容易に鋏やカッタ等によって切断されない剛性を有

しておれば、特に限定されるものではなく、ポリプロピレン等の合成樹脂製の紐等が挙げられ、その長さは、靴Aから財布Bを取り出してお金の出し入れをする際に支障のない長さであればよい。

【0012】そして、上記紐条体12の基端部は上記リール部材11の円環状体11bの任意の位置に連結されている一方、上記紐条体12の先端部には財布Bを連結するための連結部材13が一体に設けられている。

【0013】上記連結部材13は、上記財布Bを取り外し可能に連結することができるとともに、財布Bを一旦連結した後は容易に財布Bが外れ落ちないように構成されておれば、特に限定されるものではなく、例えば、図3に示したような、釣り針状のフック体13aとこのフック体13aの開口部を開閉自在に閉止する閉止部材13bとからなるとともに、上記閉止部材13bは常時上記フック体13aの開口部を閉止する方向に弾発的に付勢されているとともに、上記閉止部材13bを上記フック体13aの開口部内方に押圧することによって上記フック体13aの開口部が開放されるように構成されている連結部材13等が挙げられる。

【0014】次に、本発明の財布連結具1の使用要領を説明する。上記財布連結具1のリール部材11のバンド体11eを靴A内の任意の位置に縫着することによって、上記財布連結具1を靴A内に収納、固定する。

【0015】そして、上記靴A内に収納、固定した財布連結具1のリール部材11に巻装した紐条体12の先端に一体に設けられた連結部材13に財布Bを連結する。そして、財布Bを使用しない時には、上記紐条体12を上記リール部材11内に巻き戻してその長さを収縮させるとともに、その先端の連結部材13に連結した財布Bを靴Aの内面に沿わせた状態で靴A内に収納する。

【0016】この状態では、上記財布Bと上記靴Aとは紐条体12を介して連結されているので、人混み中でスリにあった場合にあっても、財布Bが靴Aから持ち出されるといったことはなく、スリから身を守ることができる。

【0017】又、図4に示したように、スリにあった場合でなくても、外出中に財布Bを使用した後、靴A内に収納したつもりであったが、実際には靴A内に確実に収納されていなかった場合にあっても、靴Aと財布Bとが上記紐条体12によって連結されていることから、財布Bの重みによって財布Bが靴A外に落ちていることに容易に気づき、気付かないうちに財布Bを落とすといったことを未然に防止することができる。

【0018】一方、靴A内に収納した財布Bを使用する場合には、図5に示したように、財布Bを靴Aから引っ張り出すことによって、上記リール部材11に巻装、収納されている上記紐条体12を所定長さだけ巻出す。

【0019】この際、図3に示したようなリール部材11を用いている場合には、リール部材11から巻き出した紐条体12を任意の巻出し長さで固定可能に構成されているので、不用意に紐条体12がリール部材11に巻き戻されるといったことがないとともに、紐条体12の巻出し長さが少し短いと感じた時は更に財布Bを引っ張ることによって紐条体12を更に所定長さだけリール部材11から円滑に巻き出すことができ、財布Bからのお金の出し入れを円滑且つ確実に行うことができる。

【0020】そして、財布Bからお金の出し入れが終了した時は、上記リール部材11に上記紐条体12を巻き戻すとともに、紐条体12の先端に連結した財布Bも靴A内に収納する。この際、図3に示したようなリール部材11を用いている場合には、上記リール部材11のストッパ部材11dを押圧することによって、該ストッパ部材11dと上記円環状体11bとの係合を解除し、該円環状体11bをスプリング11c力によって紐条体12を巻き戻す方向に自動的に回転させて、巻き出された紐条体12を円滑に且つ短時間でリール部材11内に巻装、収納することができる。

【0021】

【発明の効果】本発明の財布連結具は、靴内にリール部材を収納、固定し、このリール部材に巻装した紐条体の先端に財布を連結するための連結部材が一体に設けられていることを特徴とするので、人混み中を往来している間に万スリにあい、財布が靴内から取り出された場合にあっても、財布と靴とは財布連結具によって連結されていることから、該財布連結具の紐条体によって靴が引っ張られるので直ぐにスリに気づき、財布が靴から持ち去られるといった不測の事態を防止することができる。

【0022】又、請求項2に記載の財布連結具のように、上記紐条体は任意の巻出し長さにより上記リール部材から巻出し固定可能である場合には、財布を使用する際、自分の使いやすい長さに紐条体の巻出し長さを固定しておくことができ、円滑に財布からお金の出し入れを行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の財布連結具の使用状態図、

【図2】本発明の財布連結具の斜視図、

【図3】本発明の財布連結具の側面の一部断面図、

【図4】本発明の財布連結具の使用状態図、

【図5】本発明の財布連結具の使用状態図。

【符号の説明】

1 財布連結具

11 リール部材

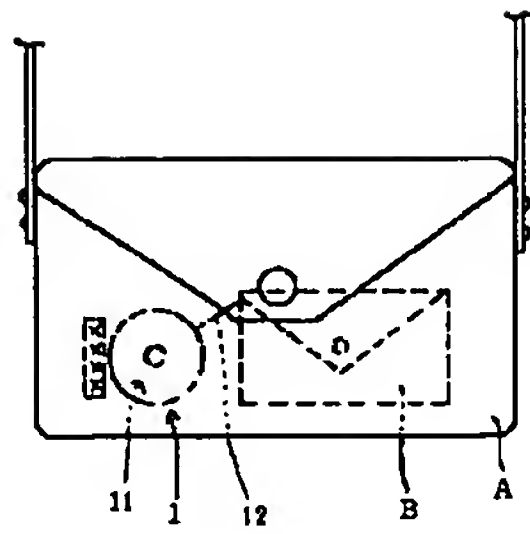
12 紐条体

13 連結部材

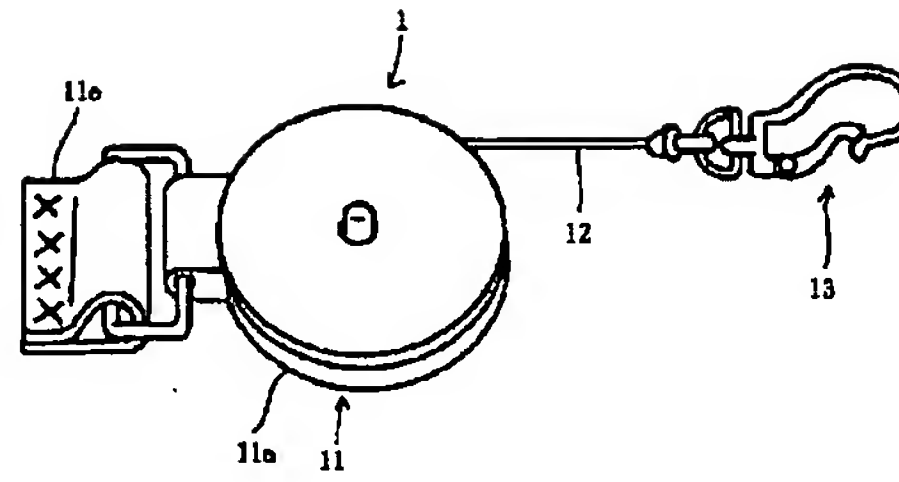
A 靴

B 財布

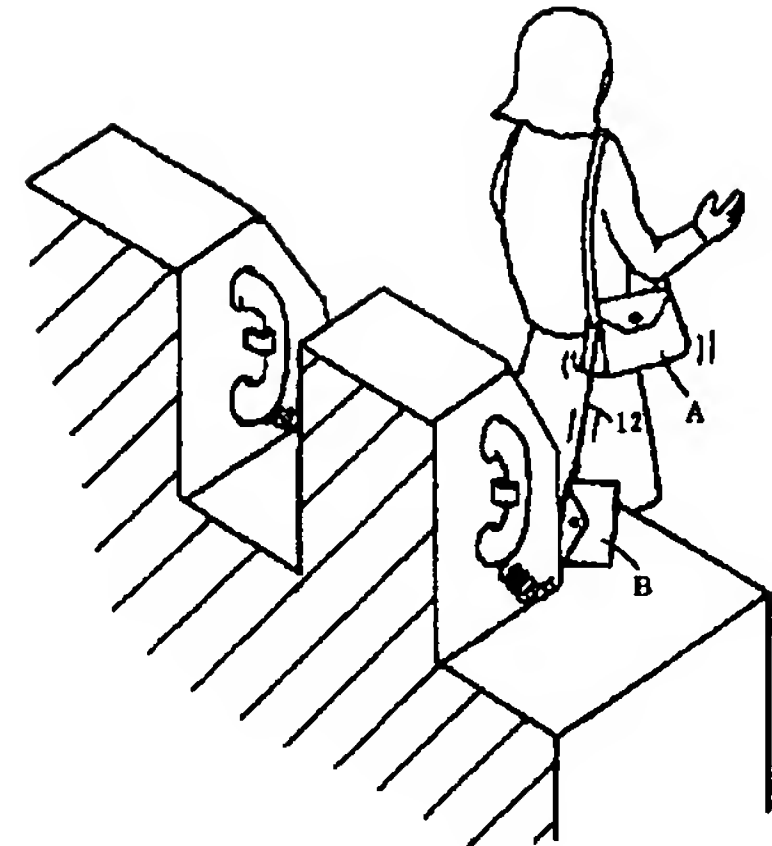
【図1】



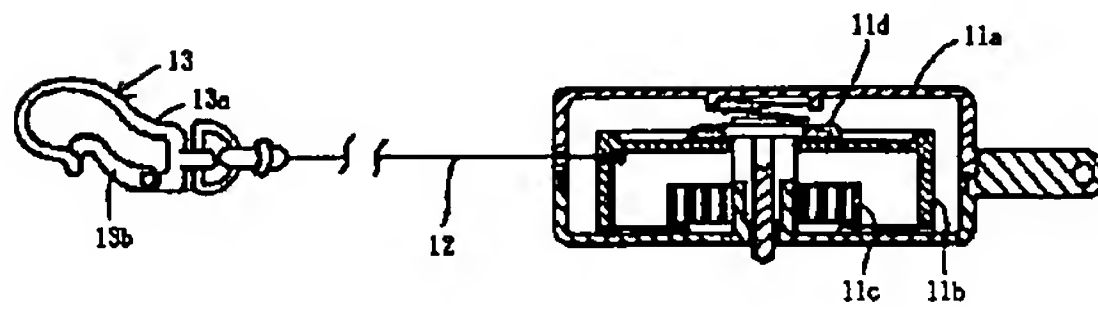
【図2】



【図4】



【図3】



【図5】

